

地球時代の生活環境と地方自治体の課題

松田喜美子

目的：本研究は人間の暮らしの基本を、その国土とそれをとりまく人間環境の接点と追究し、その具体的な方策として町おこしによる実践方法により検証を試みた。

方法：第1回町おこしはワークショップ形式により'92フロンティアスピリット+報徳法北海道により行った。

結果：道中央(美幌市)根拠地区(釧路市、野付連協組合) + 勝地区(池田町、

釧路市、士幌農協)による具体的実践が立証された。

その成果は、北海道人の持つ豊かなフロンティアスピリットが踏違える教育、文化情報、農業経営、漁業経営の見事な発想と自由な展開が、僻地の町おこしとは全く異なる人間の能力の限りない前進性を国土とを生かす方向を生じていく組織体や、地方自治体の内容が明らかになった。そして「積小至大」の報徳法は160年が経っても現代的価値をもつ生活理論として結晶化した状態を日本一を誇る士幌農協の野暮高にも立証されている。この結果は今後の自治体にも大きな刺激となり、各自自治体が各自の個性をかみしめながら活用するならば"健康な町おこしのサンプルになりと考察した。